

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (10月9日報告)について

1 経緯等

平成19年10月9日、日本赤十字社から輸血(人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液)によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、日本赤十字社から10月19日、11月7日に追加報告があったものである。

2 事例

50歳代の女性。原疾患は再生不良性貧血。平成19年6月20日から同年9月28日までの間に、輸血(人血小板濃厚液10単位32本、同20単位1本、人赤血球濃厚液2単位21本)を実施。

輸血前の血液検査(平成19年6月14日)ではHCV-RNA、HCVコア抗原及びHCV抗体検査はいずれも陰性であったが、輸血後の平成19年10月1日に実施したHCVコア抗原検査は陽性であった。肝機能検査は平成19年8月2日にAST/ALTはそれぞれ85/452に上昇したが、8月31日のAST/ALTは9/14まで減少した。

また、輸血期間中の平成19年8月28日の患者検体で実施したHCV-RNA検査は陽性であった。

平成19年10月1日の患者検体はHCV-RNA陽性であった。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

- ・当該患者には、54人の供血者から採血された赤血球製剤及び血小板製剤を輸血。
- ・当該製剤と同一供血者から製造された42本の原料血漿及び12本の新鮮凍結血漿はすべて確保済み。

(2) 検体検査の状況

- ・保管検体54本のうち、53本のHCV個別NATは全て陰性、1本のHCV個別NAT陽性。
- ・供血者54人中12人が献血に再来し、HCV関連検査は陰性(なお、保管検体HCV個別NAT陽性の献血者は、再来献血なし)。

(3) 患者検体の調査

- ・平成19年10月1日の輸血後検体でHCV-RNA陽性が確認された。